



10月22日 於安来市総合文化ホール（アルテピア）  
出雲教区檀信徒大会に参加致しました。



第 132 号  
(平成31. 1. 1)

信 楽 寺

〒690-0052  
松江市 堅町 88  
TEL (0852) 21-1589  
FAX (0852) 21-1590  
郵便振替口座番号  
01450-3-13538



### 31年のスタートもお念仏から!!

#### しゅしょうえ 【修正会(初参り)】

元旦午前0時より本堂でおつとめをいたします。

法然上人  
**浄土宗**  
開宗850年  
お念仏からはじまる幸社  
2024

## 謹賀新年

平成三十一年元旦

信楽寺住職 楽 誉 広 平  
副住職 強 誉 量 介  
総代 一同

### 【新年賀会のご案内】

◆日 時 平成31年1月20日(日) 11時より

◆会 費 2,500円

11時より おつとめ・挨拶  
11時30分より余興

◆申込み 1月15日まで

同封ハガキ(62円切手を貼る)か、  
電話・ファックスにて申込み下さい。

TEL 21-1589・FAX 21-1590

#### ◆余興

◎漫才コンビ よしこじゅんじ



◎firebirdによる

歌とサクソスのミニコンサート

皆さんのお参りをお待ちしております。

## 指定布教を終えて

住職

楽誉ぎょうよ

広平

明けましておめでとうございます。一昨年に先代が遷化往生致しました際は、皆様からご厚志を賜り誠に有難うございました。昨年は予定しておりました正月行事を総て中止させて頂きました。

早いものであれから1年、当たり前前にお正月を迎えさせて頂けることの有り難さを、今更ながら尊く感じております。

新元号が決まる新たな年が、お檀家皆様にとって、信楽寺にとっても一層希望と夢に輝く年となりますように願っております。

昨年は浄土宗で制定する指定布教に出雲教区を代表し行つて参りました。指定布教とは浄土宗が指定する遠方の地へ出掛け法然上人のお念仏のみ教えを正しく弘め伝えていくことを目的としています。

過去には大分、福井、熊本



と2年に一度のペースで出かけましたが、今回は三重県伊賀教区に3日間、8ヶ寺を回らせて頂きました。前後泊を入れると4泊5日の長旅、8ヶ寺のお寺さんが私のスケジュールに合わせて法要を準備しておられるので、この間、何があっても帰って来れない。それが一番の不安でした。もしもお檀家さんに不幸があった場合は、近隣のお寺さ

んにお葬式を代わりにして頂くしかない状況でしたが、幸いにも5日間を無事に終える事ができました。

今回回らせて頂いたお寺様は、伊賀市中心部もありましたが、ほとんどが、中心から車で30分以上はかかる場所にありました。山を一つ二つ越え、一面田んぼが広がる中にある小さな村に数十軒のお檀家さんで支えておいでになれる、そんなお寺を回らせて頂きました。

浄土宗寺院が全国に七千ヶ寺あると云われますが、その半数近くは、そんな小さな村の数少ないお檀家さんによって支えられているお寺が全国に沢山ある。その現実をもつと知るべきであると実際に訪れて感じました。数十軒のお檀家さんが、減ることはあっても増える事はない。自分たちのお寺を存続維持しようとして、ご住職と一致団結して必死に頑張っておられる姿に頭が下がる思いがしました。と同時に当山がお寺の仕事だけで生活させてもらっている現



状を大変に有り難く、恵まれていることに感謝しなければという思いを痛感致しました。

どちらのお寺様でも私の話を真剣に聞いて下さいました。話の最後には先代が遷化した時の話をさせてもらいました。

「元氣な時からお念仏を沢山お称えして、お檀家さんの教化に一生懸命勤めていた先代が、いざ迎えをいただかなければならない肝心な時に、一遍のお念仏も申すことが出来なくなつた。その姿を見て私はとても残念に思い、先代の信仰に疑問を抱いた」とその時に感じた気持ちを素直に述べました。

「今は健康でお寺にお参り



境内には国内一小さな三重の塔が建つ開化寺。  
文明開化時代に開基されたことからその寺名がつけられました。

することが出来、お念仏が称えられる私達も、いつ、どのような形で、お寺にお参りすることが出来なくなるかもしれない。しかし、それでも大丈夫ですよ。なぜ大丈夫なのか？それは今お称えするお念仏の功德で間違い無く阿彌陀仏様のお迎えを頂き、西方極楽の世界に救い取ってもらえることを、約束してもらっている私達であるからです。だからこそ見えない先の最後の事を心配するのでは無く、今お寺に通える間にしっかりと

お参り頂き、お念仏をお称えしなければならぬのです。」と結び、最後に病院の集中治療室で先代の耳元に臨終のお念仏をお称えした時の話をしました。先代は偶然だったのか、いよいよ自分にその時が来たと自覚できたのか、お浄土に旅立てる喜びだったのか分かりませんが、先代の目から一筋の涙がこぼれました。

私はそれを目にした時に「ああ、間違い無く私の念仏は届いたのだな。仏様のお迎えを頂き旅立つことができると強く確信することが出来た瞬間であった事をお話させてもらいました。

充実と安堵した気持ちでなんとか3日間の日程を終え、伊賀の里を後に致しました。

### 先代の一周忌を終えて

当山の十夜法要から、しばらく行事が続き、その上、原因不明の歯痛にも悩まされた（原因はかなり重傷の虫歯でした）ながら、11月25日先代のご寺院様、総代様、ごく近

しい親族にお参り頂き勤めました。

先にも書いた様に、11月の多くの行事で忙しかったこともあり、準備不足に加え、やり慣れている法事という油断もあったのでしよう。多くの失敗がありました

お墓の花を用意する事を直前まで忘れていたり、導師をつとめて頂いた善導寺さんが読み上げる回向紙に、平成29年を30年と書き間違えていたり、先代から「もっと気を入れて法事を勤めんといかんぞ」と言われているような一周忌の法事でありました。

法事後、場所を変えお齋をいただきながら、お参りいただいた皆さんから自己紹介を兼ねて、先代の思い出を語って頂きました。

先代にとって甥や姪である私達には、先代は「おつつあん」であり一杯が入ると「酔狂」と呼ばれる何でも欲しい物を買ってくれる、おねだり甲斐のある人でもありません。そんな思い出を好き勝手に話して賑やかに出来た事を

先代が一番喜んでいると思えました。副住職である量介は先代がいつも口癖のように言っていた言葉が忘れられないと言いました。

「わしは若い時に毎朝木魚でお念仏をお称えして、お勤めしている自分の右手が、自分の意思とは関係無く動くことに感動して、ただ生きてるのではなく、生かされていることに愕然とした。この気持ちを一生突き詰めていくことに住職としての遣り甲斐を見つけたんだ」と先代から聞かされた話を紹介してくれました。私も本人から何回も聞き、お檀家さんにも先代の専売特許の話の様に語っていました。

昭和14年、先代の兄である長男様が戦死、その2ヶ月後に父である先々代は長男戦死の報告を聞き、ショックのあまり続いて亡くなりました。本人も戦地から帰って来れない事を覚悟の上の学徒出陣、どちらのお寺、家庭でも大変な時代であったのかもしれないが、一度死を覚悟した先

代には無意識の内に手が動く事に愕然としたのも、大げさな表現ではなく、素直にそう感じたのでありましょう。

その話が次の世代である副住職に伝わっていたことに私は喜びを感じました。

語り伝えなければ自然と昔の事を忘れてしまう。自分自身の物忘れが多くなり、最近特にそう感じます。その意味で今のうちに語っておかなければ風化してしまいそうな記憶を、何とかたぐり寄せておきたいと思います。この「つきかげ」は先代の意思を語り継ぐ、信楽寺にとって寺宝とすべき大切な記録であります。過去の先代の書き物を読み直すと、今更ながら、簡単な言葉で分かり易く、単語を選びながらの文章に文才にあふれていたことを感じます。年と共に外見が先代そっくりだと言われるだけではなく、文才にあふれた文章に少しでも近づいて行けるように、頭を絞りながらの原稿であります。

## 信行奉仕団に参加して

おてつき信行奉仕団に、今年で4回目の参加になりました。心身ともに新たな気持ちで、本山知恩院へ浄土宗松江組の皆さんと共に参加することを楽しみに、同町内の東林寺の檀家の方と誘い合わせて、長女の手車で朝5時過ぎに、松江駅南口まで送ってもらいました。

信楽寺檀家さんと会えるのを楽しみにしていましたが、少数の3人の参加で何だか寂しい気がしました。

浄土宗の松江組檀信徒の皆さんと、本山知恩院へと松江駅南口を5時30分に出発しました。途中、蒜山SAと加西SAの2か所で休憩し知恩院へ到着しました。

その後、結団式で阪本憲治さんが信行奉仕団を代表し「信行奉仕の誓い」を力強く宣言され、身が引き締まる思いがしました。

結団式終了後、法然上人御

多久和和男



堂に参拝し、正面の阿弥陀如来様に届くように心から別時念仏をお称えしました。

終了後昼食を頂きました。お昼休憩後、念仏礼拝(三唱礼)ご法話がありました。

清掃奉仕作業終了後、御廟に参拝し大鐘楼を見学しました。その後、和順会館にてご法話があり、夕食・入浴で一日の行事が終わりました。

二日目は、早朝5時20分に起床、法然上人御堂にて御回

向・輪番法話がありました。

朝食後、解団式も終わり、法然上人のみ教えを信じ、今まで以上にお念仏を毎日お称え続けていく決意を新たに致しました。

来年は5回目になります。是非継続して参加させて頂きたいと思っています。知恩院を後に大阪ならばグラント花月「吉本新喜劇」で腹の底から笑い、次の目的地の「めんたいパーク」に寄り、松江駅南口到着。自宅へ帰り無事に帰りました事を、すぐに仏壇の前に座り、お念仏をお称えし報告致しました。

合掌



和順会館にて 左側が私です

## 生かされて生きる

中島 実

私たちが信楽寺さんに縁を結ばせて頂いたのは、昭和49年の12月でした。私は益田の生まれで妻の憲子は広瀬町西比田の出身。松江で結婚して8年目の12月に長女の真美子が不慮の事故で亡くなり、私の実家が「浄土宗」と言うことで信楽寺を紹介してもらったのが始まりです。

悲しみと無気力の中で葬儀を終え、前住職には連夜毎に家に来て供養して頂き、夕食を共にして頂きました。何も分からないう若い私たち夫婦の心に寄り沿って頂き、説法を聞く内にだんだんと落ち着きを取り戻すことができたのを昨日のこの様に思い出します。

「能のある者は知恵を出せ、知恵のない者は汗を出せ」とよく先輩に言われていましたが、金や知恵のない私は汗を出すこ

とで「住職に恩返しをしたい、娘が安らかに成仏してほしい」と考えるようになり、毎月第一日曜日の墓地清掃やお盆の棚経のお手伝いを長年続けて来ました。

63歳の誕生日を迎えた時、健康診断の結果「残念ながらガンです」と、医師から告げられすぐに手術。無事成功して、1か月後には退院と会社の定年退職を同時に迎えました。

その後、子会社に再就職をしましたが、ガンになってから私の人生観は一変し、会社人間から家庭人へと変わりました。妻や子供たちに長年に渡って「母子家庭状態を強いた責めてもの罪滅ぼしに」と始めた年に数回の妻との「小旅行」や私たち夫婦の日常を毎月「家庭新聞」にして子供たちに送り続けて丸9



年になります。

妻に言わせると「お父さんがガンになったお陰で、人としての生活ができるようになり私は逆に幸せになった」と、当事者より精神的に苦しいのに明るく振舞っていてくれます。

手術が成功し安心していましたが7年後に再発。更に4年後の昨年ガンの残党が三たび顔を出して、現在しつこいガンと戦

闘状態です。こうして十数年来のガンとの戦いは、戦闘機材も底を突き始め、体力的にも随分と弱ってきました。

このような中で、前住職とお盆の檀家回りがなくなった事は、一抹の寂しさも感じていましたが、本堂の改修工事や一連の整備工事の写真を「つきかげ」に掲載して頂いたのをきっかけに、半年間の諸行事の写真を取り上げて頂くようになりました。

日々体力の衰えを実感しながらも、墓地清掃や諸行事に参加し、未熟ながらも生かされて伝えることのできる喜びに、生きがいを感じています。

「つきかげ」を通じて、皆さんに信楽寺の行事の様子を、詳しくリアルにお伝えし「より多くの皆さん方にご参加を頂ければ」と願いつつ微力ながらお手伝いさせて頂いているこの頃です。

# 写真で振り返る 平成30年後半行事

聖徳太子祭お勤め 7月22日～24日

写真・文提供 中島 実氏

22日には「17条憲法」の写経をし、24日にはお勤めの後、御詠歌を奉納しました。

聖徳太子堂の参道には、門前の青砥さんのご厚意の手作りの行灯に、22日に書いた写経が飾られ、日暮れと共に幻想的な雰囲気となりました。

豎町町内会や商店会の皆様をはじめ、多くの方がお参りされました。豎町は夕方、歩行者天国になり露店も出て賑わいました。



## 盆施餓鬼法要 8月4日

初盆を迎えるご家庭を初め多くの檀家さんにご家族でお参りを頂き、お勤めをしました。

住職・佐々木総代から今月発行した「つきかげ」に先代への思いを特集しているの思い出しとして、記録として読んで欲しいと話がありました。詠唱会の皆さんのご詠歌の後、庫裡でみんな揃ってお齋を頂きました。



おてつぎ信行奉仕団 本山参拝 9月18~19日



信楽寺の「おてつぎ奉仕団」の参加者は今年には住職を含め4人でした。  
 奉仕作業の後、知恩院の「和順会館」で一泊。翌日は「なんばグランド花月」の演芸で笑ってきました。  
 来年は多くの皆さんのご参加をお待ちしています。



秋季彼岸法要 9月22日

多くの方にお参りを頂き「秋季彼岸法要」並びに「永代供養」のお勤めをしました。  
 法要の後は本山布教師の榎本了示上人（和歌山 来迎寺住職）から「幽霊」を例に優しく分かり易く法話をさせていただきました。



出雲教区檀信徒大会 10月22日



浄土宗出雲教区檀信徒大会は安来市の安来市総合文化ホール「アルテピア」で開催。松江からは貸し切りバスで多くの方が参加しました。

総本山執事 堀田定俊師の法話に続き、尺八・箏の演奏がありました。

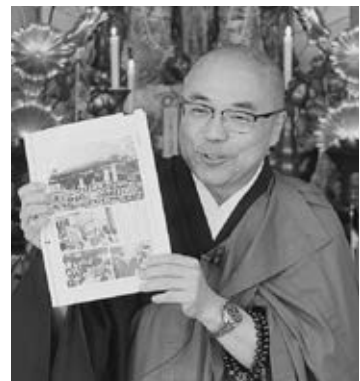
当山の内田住職は出雲教区の教化団長として主催者の一人として参加されました。



十夜法要 11月3日



遠方は兵庫県・岡山県から来山があり、総勢100名のお参りを頂きました。お念仏とご詠歌による塔婆法要のお勤めを頂きました。その後庫裡でお斎を頂きました。  
午後は、邑智郡邑南町の宝光寺住職 山本昌利上人の穏やかな口調の法話に引き込まれ楽しい時間を過ごしました。



山本昌利 上人





先代住職一周忌法要 11月25日



先代住職（静譽信廣）の一周忌を近親者と総代さんとで営みました。法要の後、お齋を頂きながら先代を偲び、それぞれの思い出を語り合いました。

浄焚会・墓地清掃

12月2日



7時から朝のお勤め、浄焚会で新仏の白木のお位牌やお札などを境内に作った炉で供養しました。今年最後の墓地清掃。皆さんの協力で綺麗になり、新しい年が迎えられます。墓地清掃は毎月第一日曜日の早朝（夏期は6時30分・冬期は7時から）お勤めの後清掃、1・2月は休）から行っています。



墓地清掃の後は恒例の温かい「芋粥」を皆さんと頂きました。平成最後の新しい年が皆さんにとって良き年となりますことを祈りつつ…。

都内散歩 その2  
―都心に松江の味を探して―

三島 由久



10月12日  
お墓参りに来松 (筆者)

私事で恐縮ですが、2018年秋、古希祝いの同窓会が松江で開催され、茨城県から6年ぶりに帰松いたしました。新幹線で岡山へ、更に伯備線経由で松江へ、2泊3日の旅でした。



島根県立美術館の庭から見た嫁ヶ島



宍道湖の夕日

松江は、不昧公200年祭で賑わっていました。「夕日の見える美術館」として有名な島根県立美術館では、「没後200年 大名茶人・松平不昧」展が開催され、見ごたえがありました。松平藩10代当主として、抹茶と和菓子を普及されたことは存知あげていましたが、松江藩の大赤字（現在の価格で約300億円）を高麗人参とか、

ろうそく等の産業振興で解消されたことは寡聞にして知りませんでした。「江戸時代後半には全国でも有数の富裕な藩となった」とありました。

県立美術館のロビーでは、松江北高茶道部の方々による抹茶のお点前と和菓子をおいしくいただきました。

信楽寺で、無沙汰を詫びつつ墓参りしていたところ、ご住職に見つかり、よもやま話の後、「つきかげ」の原稿をご指示いただきました。以下駄文を記します。

前回（2009年12月つきかげ第114号）の都内散歩は、芝の増上寺（浄土宗大本山）から、愛宕山のNHK放送博物館



ジークュービルの10Fに、銀座皆美。右側は、ヤマハ銀座ビル。



銀座皆美 ランチメニュー



銀座皆美 入口

を経て、日本の鉄道の原点である新橋まで記しました。続編として、新橋から北へ向かうことといたします。

銀座7丁目には、京店皆美術館の支店である「銀座皆美」があります。不昧公が考案されたという家伝の鯛めしとか、季節には松茸尽くしなど。昼食時でも予約していかないと入れないほど人気があります。窓際の席がとれば、ジークュービルの10階から銀座通りを眼下に眺めつつ食事ができます。

江の和菓子があればこれあります。彩雲堂の若草、風流堂の朝

「カニの釜焼き御膳」など。日本橋高島屋の地下には、松



日本橋皆美 入口



コレド日本橋

三越本店の向かいの一等地に、島根県のアンテナショップ



三越 本店

汐、三英堂の菓種の里などと、日本橋三越本店があり、やはり地下に、松江の和菓子があります。桂月堂の出雲三味、薄小倉などなど。



奥が日本橋高島屋。手前は、高島屋新館。

「にほんばし島根館」では、松江の和菓子、抹茶、出雲そば、のやき、めのは、あごだし、津田のかぶ漬け、地酒、ラフカディオ・ハーンの珈琲、のどぐろの干物などなど品数が多く、目移りします。島根県出身者のみならず、都内の方々にも喜ばれているようです。



にほんばし島根館 入口

催されています。都内の各道府県のアンテナショップは、72店舗を数え、日本橋地区も、奈良まほろば館、ブリッジにいがた、日本橋とやま館など激戦区です。



まだまだ都内に松江の味がありません。参ります。

# 聖徳太子 一千四百年大祭について

## 本尊 聖徳太子(孝養像) 堂宇 二間三尺四方

聖徳太子像は、もとは隠岐の島から渡来したもので、藩祖松平直政公が霊夢に感じて藩の作業場の守護とされました。その後、当寺に移された由緒あるものです。

堂宇は火災によって消失しましたが、明治10年7月、市内諸職人の寄進によって建立されました。

平成33年が聖徳太子さま一千四百回忌の年に当たり、当山太子像の50年に一度の御開帳があります。



50年に1回のご開帳である聖徳太子像

信楽寺のご詠歌

世間虚仮

仏は真理と説き給う

和国の教主 徳いや高し

とあるように、信楽寺にとって聖徳太子さまの存在は昔から特別なものであったことを伺えることができます。

現在も毎年7月22日から25日まで聖徳太子祭があり、豎町の夏祭りの行事としてにぎわっています。

折しも先般は松江市出雲玉作資料館から太子堂を調査にこられました。

同資料館では郷土の芸術家であり彫刻家でもある川島徳治郎の作品を調査しておられます。

川島徳治郎は奇しくも私が現在兼務住職しております天神町



檀信徒会館入り口の装飾梁

の来迎寺内和鑿堂（現存していない）宍道木幡家の茶室、建築の棟梁となりました。その他庭園、欄間、扁額など多岐にわたる作品を残しておられます。

その記録に信楽寺太子堂の名前も残されており、今回の調査となりました。



太子堂の梁・柱の装飾彫り物

太子堂正面の向拝部分の柱や梁に装飾されている彫り物が、川島徳治郎の作品であることにはほぼ間違いがないだろうという結論でありました。

また10年前に仮本堂部分に使われていた梁二本の彫り物も同じ時代の作品であるようです。改修工事の時、昔を留める数少ない物として残した甲斐がありました。

再来年に向け、50年に一度の大祭を成功させ、一生に一度めぐり会えるか分からない貴重な勝縁を是非皆さんと分かち合いたいと思っております。

### 追善寄付

為 長男13回忌追善  
 為 小島久美子追善  
 為 夫追善  
 為 叔母追善  
 為 父追善  
 為 母追善  
 為 夫追善  
 為 父追善  
 為 長男追善  
 為 父25回忌追善  
 為 父満中陰追善  
 為 母追善  
 為 妻追善  
 為 夫追善  
 為 夫追善  
 為 本人生前戒名  
 為 妻追善  
 為 夫追善

金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封  
 金一封

一枚板テーブル

施主 多久和 武  
 施主 三上千砂子  
 施主 三上 尚美  
 施主 若槻 喜保  
 施主 多久和 徹  
 施主 齊藤 佳寛  
 施主 千田 和子  
 施主 祝 知置  
 施主 須山亜佐子  
 施主 伊藤 益男  
 施主 多久和 徹  
 施主 小海 哲郎  
 施主 坂本 光夫  
 施主 吉田美都子  
 施主 榎野 豊子  
 施主 隠木志馬夫  
 施主 福田 秀明  
 施主 椋木 松代

### 平成三十一年(新元号元年) 年 回 表

三百五十回忌	三百回忌	二百五十回忌	二百回忌	百五十回忌	百回忌	五十回忌	三十三回忌	二十五回忌	十七回忌	十三回忌	七回忌	三回忌	一周忌
寛文十年	享保五年	明和七年	文政三年	明治三年	大正九年	昭和四十五年	昭和六十二年	平成七年	平成十五年	平成十九年	平成二十五年	平成二十九年	平成三十年
(一六七〇)亡	(一七二〇)亡	(一七七〇)亡	(一八二〇)亡	(一八七〇)亡	(一九二〇)亡	(一九七〇)亡	(一九八七)亡	(一九九五)亡	(二〇〇三)亡	(二〇〇七)亡	(二〇一三)亡	(二〇一七)亡	(二〇一八)亡

## 平成31年 行事予定

行 事	期 日	時 間	場 所	備 考
しゅしやうえ 修正会 (初参り)	大晦日から元旦にかけて 本堂を開けております		当山本堂	本つきかげ表紙に案内を掲載
新 年 会	1月20日(日)	午前11時	当山本堂	本つきかげ表紙に案内を掲載
涅槃 会	2月中		当山本堂	2月15日はお釈迦様が入滅なされた涅槃の日 であります。2月一杯本堂に涅槃図をおまつ りします。お参り下さい。
31年初めての 早朝墓地清掃	3月17日(日)	午前7時おつとめ 午前7時半から清掃	当山本堂	まだ寒いと思いますが、いつもの様に芋がゆを 用意して皆さんの参加をお待ちしております。
春 彼 岸 法 要	3月21日(木)	午後1時半	当山本堂	本堂にて別時のお念仏をしますので、ご参加 下さい。
出 雲 教 区 会 檀 信 徒 大 会	6月12日(水)	午後1時より	隠岐郡 西ノ島町浦郷 中央公民館	平成27年平田町で講演して頂いた、バイマー ヤンジンさん (チベット女性声楽家) に再び 講演して頂きます。 隠岐観光も兼ねて是非ご参加下さい。
聖 徳 太 子 祭 会 写 経 会	7月22日(月)	午後1時半	聖徳太子堂	聖徳太子17条憲法を写経致します。
聖 徳 太 子 祭 り	7月22日(月) ～25日(木)		聖徳太子堂	
棚 経	8月 1日(木) ～15日(木)			皆さんのお宅にお邪魔します。 次号にてお参りの順番をご案内致します。
盆 施 餓 鬼 法 要	8月 4日(日)	午前10時	当山本堂	次回つきかげにてご案内致します。
お て つ ぎ 信 行 奉 仕 団 ( 本 山 参 拜 )	9月17日(火) ～18日(水)		総本山 知恩院	年に一度の本山参り。 詳細は後日ご案内します。
秋 彼 岸 供 養・ 永 代 供 養 法 要	9月23日(月)	午後1時半	当山本堂	永代供養のご家族に関係なく皆様お参り下さい。
十 夜 法 要	11月 3日(日)	午前10時より	当山本堂	後日、皆様へ直接ご案内致します。
今 年 最 後 の 墓 地 清 掃・浄 焚 会 <small>じやうほんえ</small>	12月 1日(日)	午前7時	当山本堂	浄焚会とは、古くなったお守り・お札・お仏 壇の道具類・位牌等の魂を抜いて供養するお つとめです。お気軽にご相談下さい。

基本的にどの行事にもお参り頂きたく思っております。どうぞご予定にお組み入れ下さい。

## 定例行事ご案内

## \* 御詠歌の練習 \*

毎月第1・第3土曜日  
午後1時半より

## \* 墓地清掃 \*

毎月第1日曜日早朝  
(1・2月はお休みします。3月は17日(日)です)

## \* つきかげ会 \*

毎月第2日曜日  
午後1時半より

いずれの会も随時参加・見学歓迎しております。  
また、月によって日時・時間が多少変更する事がありますので、  
本堂前掲示板にてご確認下さい。